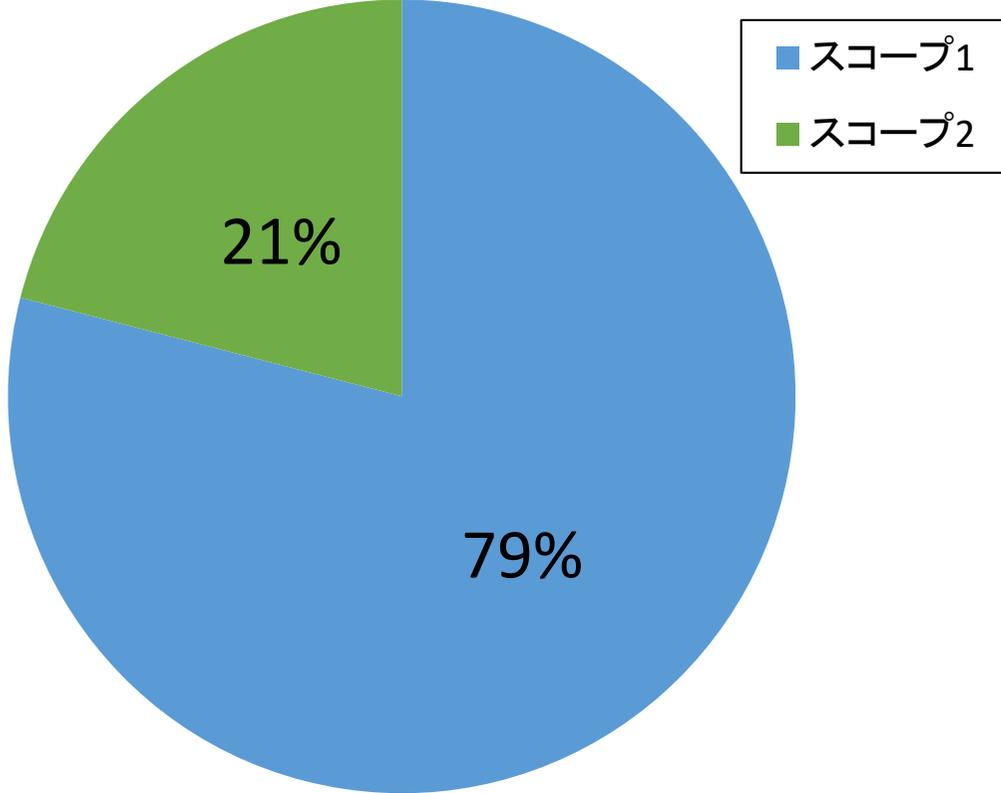


日本ウエストーン株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：サービス業● 事業概要：工業用ウエス・手袋等のレンタル・クリーニング・製造販売● 事業規模：資本金2,400万円 従業員数35人
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2030年までに2018年度比で50.4%削減を目指す。 重油ボイラーからガスボイラーへの転換、ハイブリッドトラックへの転換を推進する。 2030年までに再生可能エネルギー電力へ100%転換を目指す。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p>

日本ウエストン株式会社

項目	内容	
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 1,301.5 [tCO2] (任意)
	<p style="text-align: center;">スコープ/カテゴリ別排出割合</p>  <p>A pie chart titled 'スコープ/カテゴリ別排出割合' (Emission Ratio by Scope/Category). It shows two segments: a large blue segment representing Scope 1 at 79%, and a smaller green segment representing Scope 2 at 21%. A legend to the right of the chart identifies the blue square as 'スコープ1' and the green square as 'スコープ2'.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 345.8[tCO2] (任意)
		<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : [tCO2] (任意) <p>目標の対象セクター :</p>

日本ウエストーン株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク 天然資源である綿花から生産される綿ウエス、手袋は異常気象による災害による大不作のリスクが今後より高まる。絶対的供給不足、価格上昇の原因とある。 ● 機会 海外生産に頼るウエス、手袋の調達に於いては、その輸送コストが購買・使用する企業にとってのSCOPE 3の課題となる為、洗浄リユースのニーズがより高まる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の提供するサービス自体がリサイクルによる資源再利用であり、お取引先様に於かれては環境負荷低減活動に積極的である。その為、高い目標で自社がCO2削減の取り組みをすることにより、お取引先様からの期待にお応えする。 ● お取引先様にとってのSCOPE 3での使い捨てとリユースとの比較算定で情報提供できる土台を作る。

日本ウエストン株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 絶対量の削減には、ISO14001での原単位削減目標では達成不可能な為、大幅な設備投資、作業環境の変更を検討する必要がある。● ISO14001環境目標設定とSBTに於けるCO2排出量との両軸での目標設定の共通化を早期に実現することを共有、認識した。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1 の削減においてガスボイラーへの転換が必要であるが、導入コスト、ランニングコスト比較、性能、発生CO2等についてシミュレーション上と実運用上での相違による目標未達のリスク回避。● Scope3の削減のカテゴリーの選定と具体的施策。